

3－2．文化・観光・歴史

平成24－25年度（2012－2013年度）報告書

平成24－25年度までの年度計画は瀬戸内海西部域等の島嶼における事例調査の結果に基づき、瀬戸内圏島嶼部の大規模イベントを含めた観光資源化の可能性について調査・研究を行うことである。

以下に成果について述べる。まず、丸亀市広島において「離島の地域福祉と事業型NPOⅠ・Ⅱ」の調査と研究を行い、調査研究成果について2編の論文を発表している。また直島において観光調査を継続している。今年度の西部地域の観光地として、平成25年度の瀬戸内国際芸術祭の開催地の一つである観音寺市伊吹島での観光資源に関する調査を行った。この他の成果はシンポジウム報告の中で詳細に述べているので、そちらをもって報告に代えることとする。なお、平成24年度は稲田・大賀・丹羽・金・室井の各先生が担当、平成25年度末には、医学部看護学科から大西先生、地域マネジメント研究科から関先生を新たにグループに迎え、更なる研究活動の充実を目指し活動している。室井先生は平成25年度から名古屋大学に転出となった。